



11月10日(火)

## 神様のための生きた供え物となりましょう

聖書朗読 ローマ 12:1~8

あなたがたのすることはことばによると行いによるとを問わず、すべて主イエスの名によってなし、主によって父なる神に感謝しなさい。 コロサイ 3:17

旧約聖書の供え物は、特別な時に誰かから提供された、動物の死体でした。対照的に、新約時代のキリスト者は、神様の栄光のうちに生きた供え物として、一人ひとりの全き人生を神様にささげ続けるのです。

パウロは、私たちの全ての行いを神様の栄光に帰する方法について述べています。まず、第一にあなた自身を変えることです。あなたの人生を変えるために、あなたの考え方を変えるのです。この世が考えるように考えてはなりません。あなたが抱いている目標、道徳や会話はこの世のものとは異なり、楽しみさえこの世のものとは異なるのです。この差は明らかなので、他者はいったい何がこのような素晴らしい人生をあなたに与えるのかということを知りたいでしょう。

第二に、あなた自身を見つめることです。あなたが何者であるのか心を落ち着かせて考えることです。自身を過大評価してはなりません。明確な自己評価が向上の第一歩となるのです。自身が必要とするものに盲目であっては自身を変える進歩は望めません。

多くの人は、分かち合ったり、アドバイスを受けたりすることのできる「信頼できる友人達」を持っています。

第三に、あなた自身を使いなさい。私たちはキリストにあって一つのからだですから、お互いが共にあり、かつ、それぞれの人生を歩みなさい。私たちは、与えられた恵みに従って、異なった賜物を持っているので、同じように奉仕するのではなく、賜物に応じたそれぞれの奉仕をしなさい。それぞれが奉仕をする場所がそれぞれに与えられているのです。生きた供え物となりましょう。あなた自身を変えるのです。あなた自身を見つめるのです。あなた自身を使うのです。

讃美歌 339

祈り 主よ。どうか私たちの人生をあなたへの供え物としてお受け下さい。私たちが、より一層、喜んで更にあなたに仕える供え物となることができるよう、お導き下さい。

その道を示して下さい。イエス様の御名によってお祈りいたします。  
アーメン。

スタンフォード・ノース  
オクラホマ州 オクラホマシティ

11月11日(水)

## 主の食卓

聖書朗読 Iコリント 11:23~32

それから、みなが食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福して後、これを裂き、彼らに与えて言われた。「取りなさい。これはわたしのからだです。」

マルコ 14:22

なぜ、イエス様は、弟子達と共にある最後の晩餐の時に、自らがお与えになるものとして、パンと杯を用いられたのでしょうか？

食物と飲み物は生きるためには欠かせないものです。もし私たちが霊的に生きるなら、私たちは、私たち自身が真実に生きるために、イエス様を食べ物と飲み物として見るのです。私たちはイエス様に飢え渴いているのです。

神様とイスラエルの民の古き契約では、動物の生贄の血が祭壇で儀式的に注がれていました。生命は血のうちにあるからです。血が本当の犠牲であり、動物の体は焼き尽くす供え物や聖なる食物として使われるという感覚があります。動物の生命の血は、やがて来られる真の贖い主イエス・キリストの全き犠牲の血の象徴なのです。

動物の生命を現す象徴的な犠牲は大事なことですが、それは食べることができません。しかし、真の犠牲であるイエス様ご自身の血は、ワインやジュースを象徴として、私たち自身の体に取り込まれ、イエス様の存在が私たちの霊的な生活のうちに取り込まれるのです。私たちが満たされることを祈ります。

讃美歌 7

祈り 主よ。私たちがあなたの犠牲を覚えない時をどうかお赦し下さい。どうか私たちが、あなたが犠牲を引き受けて下さったことを感謝し畏れ、あなたへの礼拝を捧げる毎にそのことを覚えさせて下さい。贖いの血を捧げて下さった栄光の主を賛美申し上げます。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

ノーマ・プリヴィット  
カリフォルニア州 サウザンド・オークス

11月12日(木)

## 幸 せ の 秘 訣

聖書朗読 Iコリント 13:1~13

「心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。」  
マタイ 22:37

「おじいちゃん、幸せの秘訣は何なの?」。孫の学校に車で迎えに行った時に、私は12歳の孫の質問に不意を突かれました。孫は座席に飛び乗り、私の手にキスをして、私の答えを待ったのです。

しばらく考えてから、私は、「良い質問だね。幸せの秘訣は愛だよ」と答えました。使徒パウロは、いちばん大切な徳は愛であると記しています。もし、愛がいちばん大切な徳であり、いちばん大切ないましめであるならば、愛は幸せの秘訣なのです。

神様ご自身は愛なのです。世俗の思想家でさえ、愛を一番大切な徳として選びます。ジョルジュ・サンドは「愛し愛されることだけが人生の幸せである」と記しています。ある心理学者は「人生の中で何らかの愛が無ければ幸せになれるとは思わない」と結論づけています。しかしパウロによって記された聖なる愛は神様ご自身から来るのです。それは私たちの心と私たちの愛するものの人生を一変させるのです。神様はこの愛の源泉であり力なのです。

愛は、結び合わせ癒す要素であり、慰め回復させ、私たちが、  
さしあたり、奇跡と呼ぶ働きをするものである。

—————カール・メニンガー

讃美歌 442

祈り 愛する神様。私たちに愛の贈り物を下さったことに感謝申し上げます。私たちが愛とともに生き、柔和と熱意をもって、愛を現すことができますようにお助け下さい。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

S・ビル・ジーマンツ

カリフォルニア州 サンフランシスコ

11月13日(金)

## マ ラ ナ タ

聖書朗読 Iコリント 13:1~13

これらのことをあかしする方がこういわれる。「しかり。わたしはすぐに来る。」アーメン。主イエスよ、来てください。  
黙示録 22:20

マラナタという言葉はアラム語であり、ギリシャ語で書かれたIコロサイ16:22や黙示録22:20の中に記されています。英語では、「主よ、来てください。」と訳されています。初期のクリスチャンは、この言葉を将来の希望を表す言葉として使っていました。

マラナタという言葉に、疑問がわきます。なぜ、クリスチャンは主に来て頂きたかったのでしょうか? なぜ、私たちは将来の期待に生きているのでしょうか? その答えは、私たちが審判の日を待っているからです。イエス様が代々のクリスチャンとご一緒に来られ「父よ、この女性は私のものです。私は彼女の罪の贖いのために死にました。彼女は清いのです」、「父よ、どうかこの男性を咎めないでください。彼のために私は十字架への道を歩んだのです。私のゆえにどうか彼を御国へと連れて行って下さい」と仰って下さる、その日を待ち望んでいます。それは、約束の瞬間であり、勝利の日なのです。その日に、私たちの全て望みは満たされ、全ての夢はかなうのです。

審判の日への私たちの思いはどうなのでしょう? マラナタなのです。私たちは主の御腕に包まれて主の御声を聞くことができる瞬間を渴望しているのです。「よくやった。私の良き忠実な僕よ。あるじの喜びのうちに入りなさい」と。

マラナタ。主よ、来てください。

讃美歌 517

祈り 全世界をお裁きになる、愛する神様。私たちが審判の日を待ち続けることができるようにお助け下さい。イエス様がやがて私たちにわが家へと連れ帰って下さることを覚えさせて下さい。主よ、来てください。マラナタ。

私たちをお救い下さる方の御名によってお祈りいたします。アーメン。

ハロルド・シャンク

テネシー州 メンフィス

11月14日(土)

## 暗やみの日々にある私の光

聖書朗読 IIコリント 4：1～11

あなたにとっては、やみも暗くなく夜は昼のように明るいのです。暗やみも光も同じことです。 詩篇 139：12

悲しみと戦うために、この聖句を使った最初の時を覚えています。暗く雨の春でした。私たちのたったひとりの娘がアメリカの学校へと旅経つ2年目のことでした。最初の時よりも悲しかったのです。娘は二度と帰ってこなかったからです。

娘は特別でした(今もです)。とても従順で誠実で賢い子でした。娘は今も私たちの心の慰めであり、あの子の全ての人生は私たちの心のうちに今も光り輝いています。

私が悲しみと落胆から抜け出さなかった時、私は、以前、光が見いだせない日々陥った時には、「暗闇の中にあっても神様は私たちの光であるであると、神様が仰られたことを思い出そう」と、自分自身に言い聞かせていたことを思い出しました。それで、私は、神様の鼓動と光に満ちた存在を再び覚えらるる全ての聖句を書き留めました(ヨハネ8：12, Iペテロ2：9, イザヤ2：5, 詩篇104：2)。神様は光であって、神様のうちには暗いところが少しもないことを、神様はお約束下さいました(Iヨハネ1：5～7)。神様が私たちの心のうちにあるなら、私たちは癒され、高く上げられ、そして神様の輝かしい御光のうちに完全なものとされるのです(詩編76：4)。それは役に立ちました。これら全ての聖句を読み、神様の御光を見た後は、私は、心のうちに喜びを覚えることができました。

讃美歌 92

祈り 父なる神様、光であられることに感謝申し上げます。娘の心のうちにおられ、私の心のうちにもおられ、愛して下さいますことに感謝申し上げます。主の愛のうちに私を覚えて下さり、顧みと喜びを与えて下さいますことに感謝申し上げます。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

ベッキー・シュワルツ

ドイツ ミュンヘン

11月15日(日)

## アメイジング・グレイス

聖書朗読 エペソ 2：1～5

父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛の中にとどまりなさい。 ヨハネ 15：9

私の妻は庭が大好きです。ある日、妻は花壇の隅にある、しぼんで、茶色く変色し、しおれている小さな植物に気が付きました。妻はその植物に注意深く水をやり、近くの雑草を抜きました。とても驚いたことに、手当のかけがあつて、植物は生命を取り戻し、今では、わが家の庭の最も美しい植物のひとつとなりました。

すべきことを知っている庭師が、問題を抱える植物に手を差し伸べた時に起きることには驚かされます。慈愛と恵みをもって、彼女は、一度は死に至った生命をよみがえらせたのです。

そのことが、エペソ教会にあてた手紙でパウロが、神様の約束として述べたことです。エペソ教会の人々は肉体的には生きてはいましたが、うちなる心と魂はしおれていました。しかし、慈愛と愛に富みたまう神様は、優しく、恵みによって彼らを生命への道へと戻して下さいました。今日も、神様にあつて信じ信頼する私たちのうちにも同じ力が働くのです。

神は、あなたがたを、常にすべてのことに満ち足りて、すべての良いわざにあふれる者とするために、あらゆる恵みをあふれるばかり与えることのできる方です(IIコリント9：8)。

讃美歌 第二編 167

祈り 愛する主よ。あなたの恵みが私たちを生命への道へと戻して下さいますことに感謝申し上げます。私たちがあなたの愛の力を忘れることなく、あなたが私たちを愛して下さいました愛を惜しみなく与える道を歩みことができますようにお導き下さい。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

カール・アイフ

テキサス州 ルボック